

1. 職名・氏名 准教授 長谷川小眞子

2. 学位 博士 専門分野 看護学 授与機関 聖隷クリストファー大学 授与年月 2025年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 精神保健（1単位 毎年開講）1年前期 オムニバス講義
② 内容・ねらい 保健医療福祉の専門職に必要な精神保健に関する基礎知識を学習し、専門領域の学習につなげることを目的とする。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 本科目では精神保健に関する基礎知識を教授し、専門領域の学習につなげることを目標としている。日常生活における体験や社会で起きている精神保健に関する出来事を教材として取り上げ、精神保健に関する問題（いじめ、虐待、不登校、自殺、依存症等）に関して、個別学習⇒グループワーク⇒発表・全体討論とする授業展開を行った。授業に関する感想の記述をもとに教授方法の調整を行った。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 精神看護学（2単位 毎年開講）2年後期 オムニバス講義
② 内容・ねらい 精神看護実践に向けた基本的知識の獲得を狙いとする。こころの健康・不健康の捉え方、精神障害の病理的特徴および治療経過に関する知識を得る。障害が生活に及ぼす影響を理解し、具体的な看護実践の展開に必要な知識を得る。 また、精神看護の展開の基礎的知識となる、精神疾患、精神科における各種検査や各種治療法、精神障害に対する心理社会的リハビリテーションの概要などを理解する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義では、主要な精神疾患に関して、病因・症状・診断・具体的な看護の展開例を示している。学生にとって、精神疾患は理解しにくい内容が多い。したがって、適宜、視聴覚教材等を使用し、精神疾患を患うことの意味や生活のしづらさに関して、学生が理解しやすい講義内容を構築している。また、内容の理解度に関して確認テストを実施し、精神看護を実践するうえで基盤となる基礎知識の習得や看護実践の概要理解の定着に努めた。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 精神看護学演習（1単位 毎年開講）3年前期
② 内容・ねらい 精神の健康問題を持つ人に対して、治療的関係性の活用を基盤とした精神看護学の知識と技術を学習する。また、精神の健康問題を持つ人に対する看護展開の方法について、精神看護の重要な技術である治療的関係性を活用した看護展開と、対象者のセルフケアの再構築に向けて、対象者の持てる力を見つけ伸ばし育てることに焦点を当てた看護過程の展開方法を学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 看護過程の展開に関しては、主要な精神疾患の紙上事例を設定し、学生が具体的な看護援助を実践できるよう、講義内容を構築している。その他、精神障害者の地域生活支援の実際および精神看護の専門性に関する知見を得るため、それぞれ「訪問看護ステーションACT-Jの施設長」「精神看護専門看護師」をゲストスピーカーに招き、学びを深めた。
【ゲストスピーカー 2人】

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 精神看護学実習（2単位）3年後期
②内容・ねらい 実習体験を通して、精神の健康の維持・増進、回復するために必要な知識・技術・態度を統合し、精神に障害を持つ人に対する看護実践の基礎的能力を養うことを目的とする。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 実習では、初めて精神障害者と関わる学生がほとんどであり、不安や緊張が強いため、特に学生の反応に留意しながら、実習目標が達成できるよう指導にあたっている。 患者の精神症状の理解に関しては、患者の言動の意味を学生と共に考え、病的体験によって日常生活が障害されている部分を支持しながら、患者の強みを生かして、患者が主体的に生活できる力を身につけるために必要な看護実践を指導している。 実習を通して、学生は治療環境としての自己を振り返らざるを得ない機会があり、学生にとっては「自分を見つめる」辛い作業になることもある。このような時は、学生が自分の感情や価値観に気づけた事を支持し、自己の課題を明確にし、課題達成ができるよう指導にあたっている。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 精神看護発展セミナー（1単位）4年前期
②内容・ねらい 既習の精神看護学関連の学習内容を踏まえた上で、精神障害者の生活を支援する看護実践のあり方や精神看護の専門性とは何かを探究する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 セミナーでは、学生の主体性・自主性を最大限に尊重した。「課題設定」では、自ら探究したい「テーマ」について文献検討を行い、精神障害者の生活を支援する看護実践のあり方を考察した。「精神障害者の地域生活支援」をテーマにした学生は、精神科訪問看護師およびACCT職員にインタビューを実施し、内容を纏めた。 【フィールドワーク1件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業研究：精神看護学（3単位）4年
②内容・ねらい 科学的思考を養い、自ら探究する態度と研究能力の基礎を身につけることを目的とする。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 学生の研究動機を尊重し、リサーチクエスションの明確化、研究方法・結果・考察等、研究に関する基本的な学習内容について理解を深めるために、週1回のゼミを開催した。文献検索や論文作成に関して、学生自らが研究プロセスを踏んでいると自覚でき、研究プロセスを的確に文章表現できるようにサポートした。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり）	【 本】
③その他論文（査読なし）	【 本】

④学会発表等 1) 舩井佐奈枝, 米谷理恵, 中嶋直美, <u>長谷川小眞子</u> , 外来看護師における ACP の認識と実践に向けた課題～AI テキストマイニング by ユーザーローカルによる可視化の試み～、第 56 回日本看護学会学術集会 (2025 年 9 月) 2) * <u>長谷川小眞子</u> , 市江和子. 精神科看護師における統合失調症患者に対するフィジカルアセスメントに関する教育プログラムの作成と評価、第 45 回日本看護科学学会学術集会 (2025 年 12 月)	【2 件】
⑤その他の公表実績	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】 令和 7 年度科学研究費補助金 (研究代表者: 豊橋創造大学教授 藤井徹也) 1. 基盤研究 (B): 多職種・多角的データの一元化 AI を活用した訪問看護アセスメント支援システムの開発、研究分担者 【学内】	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
・日本精神科看護協会 福井県支部看護研究発表会 論文査読委員 (2016 年～現在に至る)	

5. 地域・社会貢献活動

① 国・地方公共団体等の委員会・審議会
② 国・地方公共団体等の調査受託等
③ （公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加
④ （兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動 1) 「福井刑務所 処遇カウンセラー（薬物担当）」（2020 年 4～現在に至る） 薬物依存離脱指導に関する業務支援として教育専門官とともに月 1 回の講義に参加し、アドバイザー的な役割を担っている。
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 1) 敦賀市立看護大学研究倫理審査委員会委員（2024 年 4 月～現在に至る） 倫理審査委員として年 6 回開催される倫理審査委員会に出席している。 2) 勝山市職員心の健康相談室 相談員（2014 年 4 月～現在に至る） 2 か月に一度、職員のメンタルヘルス相談業務にあたっている。 3) 令和 7 年度保健師助産師看護師実習指導者講習会 講師（公益社団法人福井県看護協会、「精神看護学実習の実際」（2025 年 7 月 31 日）） 4) 北陸技術交流テクノフェアにおいて「福井県立大学看護福祉学部看護学科」として出展し、研究紹介を行った（2025 年 10 月 23、24 日） 5) ACT 福井主催「第 3 回 ACT 交流会」司会（2025 年 10 月 26 日） 6) ACT 福井主催「ACT シンポジウム-福井県初の ACT チーム開設を目指して-」（2025 年 7 月 6 日）（会場：福井県立大学） 看護学科 3 年生聴講 7) 坂井市立三国病院 看護研究指導（2004 年～2025 年 3 月） 研究計画・研究実施・論文作成・研究発表までの一連の指導を行った。
⑥公開講座、オープンカレッジ、社会人・高校生向けの講座の開催 ・オープンキャンパス担当（2025 年 8 月 3 日）
⑦その他

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
・フィンドレー大学交流 WG（2025 年～） ・SIM・ICT 推進 WG（2025 年～） ・カリキュラム検討委員会委員（2025 年～） ・4 年生 副担任（2024 年～現在） ・職場委員会委員（2025 年～）
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など
・2025 年度精神保健に関する技術研修「第 4 回統合失調症の標準治療研修」受講（2025 年 9 月 7 日） ・京都科学主催：シミュレーター教育研修「いつもの演習・実習でシミュレーターをうまく使いたいと思っている人のためのセミナー」参加（2025 年 10 月 11 日）